

## 6.5まとめ

各場所におけるダム及びダム以外の影響と生物の生息・生育状況の変化を検証し、影響要因が検証された場合に、評価の視点を定めて、評価を行った。

それらを踏まえ、ダム管理上の課題を解決するため、地域とダム管理者とが連携した取り組みを推進する。

表 6.5.1(1) 生物の生息・生育状況の変化の検証・評価と今後の方針

場所等	ダムとの関連の検証及び評価	今後の方針
ダム湖内	<p>(1)ダム湖内の特徴 ダム湖内の環境に適応した魚類、底生動物等が生息し、特定外来生物であるオオクチバスの定着が考えられる。</p> <p>(2)ダムによる影響 ダム湖ができたことにより、ダム湖内の環境に適応した生物が生息するようになった。また、人の利用も増加した。</p> <p>(3)ダム以外による影響 ダム湖周辺の人利用により、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれたり、定着したりしている。</p>	<p>・ダム湖内に生息する特定外来生物であるオオクチバスについては、今後も継続的に調査し、生息状況の把握に努める。</p> <p>・立て看板を設置し、外来生物法等に関する啓発・広報に努める。</p>
流入河川	<p>(1)流入河川の特徴 流入河川ではオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなどの流水環境を好む魚類が多く確認された</p> <p>(2)ダムの影響 特に影響は想定されない。</p> <p>(3)ダム以外の影響 特に影響は想定されない。</p>	<p>・特になし。</p> <p>・特になし。</p>
下流河川	<p>(1)下流河川の特徴 ダム直下流においては、砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、カワムツ、ウグイ、淵を好むカワムツや川の中・上流域の淵の周辺から平瀬の流れの緩やかな場所に生息するカワヨシノボリが確認されるようになった。</p> <p>(2)ダムの影響 ダムができたことにより土砂供給量の変化し、下流河川の河床低下や河床構成材料の粗粒化等が生じている可能性がある。 近年、維持流量の放流により河川環境が改善されつつある可能性がある。 濁水長期化により何らかの影響を受けている可能性が示唆された。</p> <p>(3)ダム以外の影響 特に影響は想定されない。</p>	<p>・維持流量の放流と河川環境との関係が明らかになるよう魚類調査、底生動物調査等を継続して行う。</p> <p>・特になし。</p>

表 6.5.1(2) 生物の生息・生育状況の変化の検証・評価と今後の方針

場所等	ダムとの関連の検証及び評価	今後の方針
ダム湖周辺	<p>(1)ダム湖周辺の特徴 ダム湖周辺の森林植生は維持されており、動物の生息状況にも大きな変化はみられない。ただし、特定がイラク生物のオオカワヂシャが確認されるなど、外来種が増加傾向にある。</p> <p>(2)ダムの影響 林縁部の出現等により外来種が侵入しやすくなったと考えられる。</p> <p>(3)ダム以外の影響 人の利用が増加することにより、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれたり、分布を広げたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分布域の拡大や在来種への影響に留意しながら、生息状況を継続的に調査して把握に努める。</li> <li>・立て看板を設置し、外来生物法等に関する啓発・広報に努める。</li> </ul>
連続性	<p>(1)ダムの影響 自然分布域ではないが、ワカサギがダム湖内に陸封されている可能性がある。また、ウグイ、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブなど回遊性魚類等の遡上が猿谷ダムによって阻害されているかどうかは不明である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
重要種	<p>(1)ダムの影響 猿谷ダムによる、重要種に対する影響については特に明確なものはみられず、影響要因は不明である。</p> <p>(2)ダム以外の影響 ダム以外の影響については不明である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川水辺の国勢調査を行う際に生息状況に留意して調査を行う</li> <li>・河川水辺の国勢調査を行う際に生息状況に留意して調査を行う</li> </ul>